



もくじ

こいびと—表紙の生産者をご紹介
安佐北区白木町
長岡 直幸さん 2

特集
進めよう!自己改革 4

- JATピックス 6
- まるごとJA [第8回]
LPGセンター 8
- 農の現場から⑧
沼田地区 10
- 松田麗子の
おなかいっぱい、幸せいっぱい
ネギ 12
- 健やか生活相談室
正しい睡眠のための
条件を教えて! 14
- やさしい菜園プラン
ブロッコリー 15
- おしゃべり広場 16
- HAPPY SMILE 16
- クロスワードパズル 17
- JA広島市 情報BOX 18
- ひろしまる倶楽部 & こいぶみ
農家今昔物語 20



牛舎内は清潔に保たれている。



「家族がいつも一緒にいられるのがこの仕事のいいところ」と妻の真奈美さん。



質の良い大きな牛を
これからも育てていきたい。

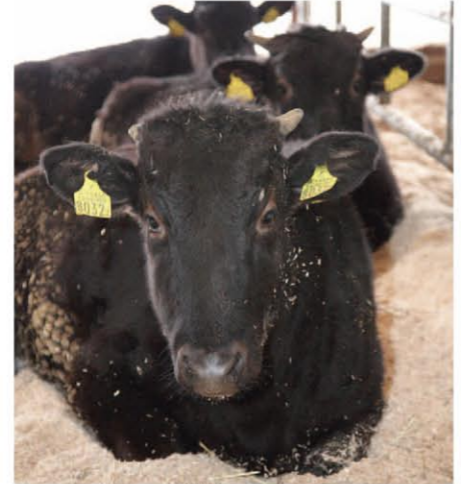
3回広島県畜産共進会「枝肉



共進会の表彰式には息子の蓮君とともに参加。



「牛肉を食べるときは、その味を確認することが多いですね」と長岡さん。



牛は、耳に付けた耳標で管理されている。

共進会の表彰式には息子の蓮君とともに参加。共進会の表彰式には息子の蓮君とともに参加。共進会の表彰式には息子の蓮君とともに参加。

肥育歴20年以上の長岡さんが、一昨年初めて手に入れた勲章がある。伝統ある広島県畜産共進会の枝肉の部において最優秀賞を受賞したのだ。これは広島市内の牧場としては初め度目の最優秀賞を獲得した。「二昨年は初めてのこと、本当にうれしかったのを覚えています。自分の思うような牛を育てることができ、賞もいただくことができた。この仕事を続けてきてよかったです」畜産業は、一頭一頭にかかるリスクも大きい。その

励みになった
共進会最優秀賞

子どももいい牛である傾向が強い。ただ、それだけではなく、もちろん肥育技術も重要な要素。長岡さんは、牛にストレスを与えないように、毎日同じ時間にエサをやり、少しずつ切り替えたり、衛生的な牛舎を保つためにこまめに掃除し、基本に忠実に肥育を行ってきた。「毎日の積み重ねと、牛を観察する目が大切です」

子牛を育て大きくする
牧場を経営

広島市安佐北区白木町。広島市中心部から車でおよそ1時間のこの地で、長岡さんは和牛の肥育を行う白木長岡牧場を経営している。肥育とは、購入してきた生後8〜9カ月の子牛を育成し大きくすること。肥育にかかる期間はおおよそ20カ月間。こ

こいびと—表紙の生産者をご紹介
長岡 直幸さん
(45歳) 安佐北区白木町

「おいしいお肉を、安定して生産する」。妻の真奈美さんと一緒に畜産業を営む長岡直幸さんの思いは、開業以来ずっと変わらない。その思いが実り、一昨年、昨年と続けて出品牛が最優秀賞を受賞した長岡さんに、畜産業への思いを伺った。

My History
マイ・ヒストリー

1991年 高校卒業後、JA白木町入協。
1997年 JAを辞め、畜産経営開始。

My Hobby
マイ・ホビー

ソフトボール
地域での交流を楽しんでいる。



「うしかい」になりたい
息子は夢に向かって
勉強中

そんな畜産業の道に踏み出そうとしているのが、息子の蓮君だ。現在、長岡さんと同じ畜産科のある高校に通い、学んでいる。「保育園の時の卒園文集に、将来は「うしかい」になりたいって書いていたんです。うれしかったですね」と妻の真奈美さん。父の仕事の誇りに思いながら牧場を手伝う息子の姿を、長岡さんもきっとうれしく思っているでしょう。「これからは、より質の良い大きな牛を育てていきたい」とそう語る長岡さんの夢の中には、すでに息子さんが登場しているのかもしれない。

分、うまく育てることができた時のやりがいも大きい。

の間に、子牛の体重は2.5倍ほどまでになる。もちろん、エサやりや牛舎の衛生管理など、日々の仕事を欠かすことはできない。現在は、100頭近い和牛を飼育している。「年間60頭近くを出荷し、ほぼ同数の子牛を導入する。そのサイクルを繰り返しています」

子牛導入時に意識するのは、その血統だ。兄弟にいい牛がいると、その

本誌タイトル「こいぶみ」とは、JA広島市の気持ちをまっすぐ、組合員をはじめ多くの人に届けるため、広報誌を手紙に見立てたところから命名いたしました。「こいぶみ」の「こい」には、人や地域を愛する「恋」のほか、多くの人に呼んでもらえる「来い」、情報が「濃い」など、さまざまな意味を込め表現しています。